

「理想のまち」を、
あなたとともに。



上尾市議会議員

これまでの活動のご報告

えびはら直矢

1 あなたにお伝えしたい、
えびはら直矢がこれまで
取り組んできたこと

2 あなたとともに作りたい、
えびはら直矢が考える
「理想のまち」

皆さんが考える「理想のまち」はどんなまちでしょうか、
子育てや介護を何かと諦めなくて良くなるまち
常に市民の声に耳を傾けるまち
緑があふれ、活気にもあふれるまち
そんな理想の実現のため、これまで活動をしてまいりました。
「理想のまち」を、あなたとともに。

理想への歩みをさらに進めるため、皆さんとともに、
未来に向けた提案をさせていただきます。

海老原 直矢



1 困難に直面する人を助けるのが政治の役割

私は、困難に直面している人を助けることが政治の役割だと考えています。

今まさに困難な事情を抱えて苦しんでいる人。貧しさや家庭環境により将来に希望を持っていない人。様々な生きづらさを感じている人。そういった人たちを支えることが政治の役割であり、苦しむ人のためにこそ、政治の力を使うべきという思いのもと、困っている人に手を差し伸べる政治、寄り添う街をつくるために活動をしてきました。

2 とともに声をあげれば理想は必ず現実となる

私は、市民の皆さんとの対話のなかで私は多くの「理想のまち」の姿を見てきました。そして、その姿をひとつでも多く現実のものとするため、課題の解決を第一に政策提言を行ってきました。

市民の皆さんとともに市に要望を行ってきた課題の多くが改善されてきています。市民が声をあげること諦めなければ理想は必ず現実となる、そのために議会の場でその声を伝えるのが自分の役目だと考えています。

えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。35才。
茗溪学園高等学校卒業。上智大学法学部卒。首都大学東京社会人類学教室修了。

大学院修了後、国連UNHCR協会職員などを経て、衆議院議員公設第一秘書を務める。
大学在学中に市民団体を設立し、子どもたちの放課後を考える団体など複数の団体の運営に携わってきた。
2017年、上尾市議会議員に当選（現在2期目）。
2022年、EU短期招聘訪問プログラムに参加し、欧州における子ども・女性の権利や地方自治について学ぶ。
2023年、地方監査会計技術者に認定。

現在、健康福祉常任委員会委員長、子ども・子育て会議委員、健康づくり推進協議会委員、環境審議会委員など。

〈家族〉妻、長男(7才)、長女(6才)、次男(5才)

新型コロナや物価高騰、 市民の声を届けてきました。



新型コロナウイルス感染症の拡大とそれによる緊急事態宣言、そしてロシアによるウクライナ侵攻などが原因となった物価高騰・エネルギー価格高騰など、私たちの生活を取り巻く環境は大きく変化し、また厳しいものとなっています。

えびはら直矢は会派『政策フォーラム・市民の声あげお』として、畠山市長に対し繰り返し市民の声を届けるための要望書などを提出し、市民生活に直結する各種施策の実施を後押ししてきました。

要望を行い実現した主な内容

2020年

- 新型コロナウイルス感染症について幅広く相談できるワンストップ窓口の設置
- 保育所・学童保育所への衛生用品の配布
- 介護・障害福祉サービス事業者に対する感染症対策の支援
- 経営に影響を受ける市内事業者への調査の実施と調査結果に基づく支援策の実施
- 緊急事態宣言下での「女性のための相談」「女性のための法律相談」の継続実施

2021年

- ワクチン接種予約システムのコールセンター待ち時間の改善
- ワクチン接種について予約受付日ごとの上限・供給数をホームページで明示
- 上尾市を県の高齢者入所施設職員を対象とした PCR 検査の対象とするよう要請

2022年

- 全保護者に対する小学校休業等対応助成金の文書での通知
- 保育所・幼稚園への一時預かり事業の臨時的利用について周知
- 市が実施している自宅療養者への支援について医師会と連携した周知強化

2023年(物価・エネルギー価格高騰対策)

- 児童福祉などの社会福祉施設に対する物価高やエネルギー価格高騰を踏まえた支援

1

安心して働き、子育てができるまち

働くあなた、子育て世代のあなたとともに

安心して働くことができる、ということは特に子育て世代にとってとても大切なことですが、現在の市の子育て施策は共働き世帯が大きく増えた社会状況に対応できていません。また、アレルギー対策や課題を抱える子どもたちへの支援など、安心して保育所や学校に子どもを通わせることができる環境をつくることも急務です。



データでみる

学校の登校時間の変化

児童の登校時間を変更した小学校数(予定を含む)

14校/22校

令和元年～	1
令和2年～	3
令和3年～	6
令和4年～	3
令和5年(予定)～	1

コロナ禍以後
登校時間を
遅らせる学校
が増加

(出典)上尾市学務課資料

学校での食物アレルギーの現状

	在籍児童数	食物アレルギーのある児童生徒数	一部または毎日弁当持参
小学校	11,052	675(6.1%)	279(2.5%)
中学校	5,694	424(7.5%)	73(1.3%)

(出典)学校保健課『令和3年度学校給食における食物アレルギー対応実施状況調査結果』

えびはら直矢が実現してきたこと

- 子ども家庭総合支援拠点(子ども家庭総合支援センター)の早期設置
- コロナ禍において幼稚園児を一時預かり保育事業の対象に
- 新しく策定された学校給食基本方針にアレルギー対策の推進を明記
- 朝9時前・夜7時以降の小学生の預かりの必要性について調査
- 乳がん・乳幼児健診の休日枠拡大など受診率向上のための調査を実施



健康福祉常任委員として新たにオープンした子ども・子育て支援複合施設『AGECOCO』を視察

▶ 「理想のまち」のためこれから取り組みたいこと

- 学童保育の一時利用の仕組みや朝夕の時間の小学生への保育の提供など子育て世代が働きやすい制度の創設
- より積極的に幼稚園と連携して保護者に対して活用を促すことによる待機児童・隠れ待機児童の解消
- 食物アレルギー対応食の導入や有機食材の利用など保護者の声に応えた学校給食の推進

介護や生活などに困難を抱えるあなたとともに

市だけでなく県や国も含めて、さまざまな福祉施策が私たちの生活を支えるために存在していますが、現状では必要な方に必要なときに情報が届いていないために大きな困難に直面してしまうことが少なからずあります。この課題を解消するためには、市の相談窓口をより市民が利用しやすいものにするとともに、介護・障がい者福祉などの人材確保による受け皿の整備も必要です。



データでみる

不安や悩み事の相談先

「不安や、悩み事を相談する場合、誰に相談しますか」という問いに市の相談機関などと答える人は、特に60歳以下の年代で非常に少ない。

	市職員・市の相談機関	地域包括支援センター
18～29歳	1.5%	1.5%
30～39歳	15.9%	3.7%
40～49歳	18.9%	5.7%
50～59歳	20.1%	7.8%

(出典)『第3次上尾市地域福祉計画および第6次上尾市地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査報告書』

埼玉県における介護職とほかの職種の離職率

全職種の平均と比較すると、**介護職として働く人の離職率は1.5倍以上**になる。

全職種	10.9%
介護職	16.8%

(出典)介護労働安定センター「介護労働実態調査」、厚生労働省「雇用動向調査」をもとに埼玉県作成(2018年)

えびはら直矢が実現してきたこと

- 市民の複合的な相談を受け付ける**福祉総合相談窓口設置**
- 集団検診を受けられない方のために**胃がん・乳がん検診の個別検診の実施**
- 上尾市犯罪被害者等支援条例を制定し**犯罪被害者の方々への見舞金支給を開始**
- さまざまな相談窓口での受付の明記など**難病患者についての施策の推進**
- 外国人や性的少数者などの**マイノリティの児童生徒の相談窓口の周知**



視覚障がい・難病の当事者の方々との相談や防災などの市の施策について意見交換。

▶ 「理想のまち」のためこれから取り組みたいこと

- 福祉や子育て、健康に関する相談窓口は**平日夜や土日にもお困りごとが相談できるよう対応時間を改善**
- 女性相談や障がい者・難病患者の相談、家計相談などについて、**専門家や団体とも連携をしながら市民に寄り添った相談環境を整備**
- 安心して暮らせる地域社会をつくるため、**介護や障がい者福祉の現場で働く方々のサポートを独自に市として実施**

3

市民の声が届き、市民とともに歩むまち

今の上尾市に自分の声が届いていないと感じるあなたとともに

西貝塚環境センター業務に関する入札不正や元市長所有地への市費でのブロック塀建設、市民の声を無視した学校統廃合計画の公表など、上尾市では市民の声が届かない政治が続いてきました。この風土を変えるためには、単に不正を起こさないための制度整備では不十分で、市民の声をより積極的に受け止め、取り入れる仕組みをつくっていくことが不可欠です。



データでみる

政策提言制度

政策提言・問い合わせの振り分け件数(R3)
市民のハガキのうち市長が目を通したのは**0.7%**

政策提言	7件	0.7%
問い合わせ	1,004件	99.3%

(出典)上尾市広報広聴課

公園整備の工程表

第1期 2022~26	21公園	第5期 2042~46	15公園
第2期 2027~31	15公園	第6期 2047~51	28公園
第3期 2032~36	13公園	第7期 2051~56	28公園
第4期 2037~41	17公園	第8期 2057~61	30公園

→ 市内の公園(都市公園・その他公園)のうち
51.5%が25年後以降の整備予定

(出典)『上尾市公園施設維持管理更新計画』

こちらのQRコードですべての公園の更新時期の一覧をご覧いただけます。



えびはら直矢が実現してきたこと

- 外部組織への通報を基本とした、**圧力に屈しない組織をつくる職員倫理条例**制定
- 令和3年度決算審査において補助金の**不適切な支給を指摘し決算を不認定**に
- 市民が「提言」か「問合せ」から選べるよう『**市長への政策提言制度**』の運用を改善
- 暫定的利用である**上平広場のフェンス工事への過剰な予算を指摘し予算を削減**
- 審議会などへの女性の登用状況**と目標に達しない理由を市ホームページで公開



畠山市長に対して学校統廃合など市民の声を反映した市政をすすめていくよう要望



▶ 「理想のまち」のためこれから取り組みたいこと

- 広聴制度を条例などでしっかりと位置づける**とともに、審議会などへの公募委員を増やすなど市民の声を無視しない制度づくり
- 黒塗りが常態化している情報公開制度を見直し**、市民に対してきちんと情報を明らかにしていくまっとうな制度へと改革
- 道路や公園の整備など、長い期間市民要望にこたえられていない事業は**市内企業からの寄附制度**などにより市民の皆さんとともに状況を改善

そのほかにもこんな問題に取り組んできました。

2期目(2020年~2023年)に一般質問で取り上げてきた主なテーマ

2020

- 3月 ※新型コロナウイルス感染症による議会休会のため一般質問を取り下げ
- 6月 ■保育所からの過剰な自粛要請への対応 ■外国人市民への情報発信の強化
- 9月 ■子ども食堂の情報提供 ■緊急事態宣言下でのふるさとハローワークの稼働継続
- 12月 ■希少動植物保護のための方針策定 ■市民後見人の養成

2021

- 3月 ■ダブルケアを行う方の相談受付 ■イオンモール上尾への期日前投票所の設置
- 6月 ■40歳以上の「大人のひきこもり」の相談受付 ■災害時の要配慮者支援
- 9月 ■「終活」の理解促進を含めた空き家対策 ■ファミリーサポートセンター利用への補助
- 12月 ■養育費の取り決めの促進 ■介護人材として就労する外国人が相談しやすい環境整備

2022

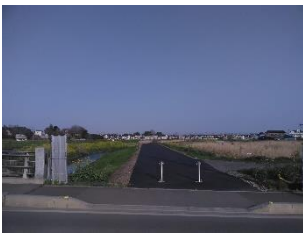
- 3月 ■ファイナンシャルプランナーとの連携 ■若年がん患者の終末期支援
- 6月 ■団地再生・活用に向けた方針の策定 ■ペアレントメンターの保護者向け相談事業の周知
- 9月 ■市内転入した正社員に基づく交付金支給 ■有機農産物の生産の促進
- 12月 ■介護を行う家族への情報周知の強化 ■常設的な平和のシンボルの設置

2023

- 3月 ■マスク着用のルールに関する周知の通知 ■新幹線高架下の活用
- 6月 ■公園におけるボール遊びのルールなどの公開 ■中学校の制服リユース

地域の課題解決のために

原市地区の生活環境の改善のために取り組んできた主なこと



工事後に放置されていた原市沼中の池-2堤防に遊歩道を整備



原市沼周辺を保全配慮地区に指定し自然に親しめる空間となるよう県に要望



市道同士としてはじめて交差点に『原市5区』の名称を付け標識を設置



第二産業道路の路上駐車について、警察が定期的にパトロールすることに

皆さんのご意見を聞かせてください

えびはら直矢は定例会ごとに市政報告会を開催し、市民の皆さんとの意見交換を繰り返してきました。

これからも、皆さんのご意見をもとに政策提言を行っていきます。

ぜひ、生活のなかで感じる不安や市政に対する思いなど、どのようなことでも、あなたのご意見を教えてください。



ご連絡はこちらから



メール



facebook



Twitter

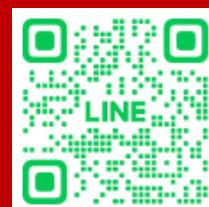
えびはら直矢 公式 LINE を友人知人へ広げてください。

LINE 公式アカウントをはじめました。

活動報告、イベント情報などをお届けいたします。

ぜひお友達登録いただき、ご友人やお知り合いの方にも広げてください。

▶ QRコードをスキャンしていただくと登録していただけます。



えびはら直矢事務所

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9

〈TEL〉 048-716-7323 〈FAX〉 048-677-1676 〈e-mail〉 ebihara116@gmail.com